

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	墨田区太平保育園
施設所在地	墨田区太平1-13-10

1. 活動のテーマ

<テーマ>

『自然と触れ合える、わくわく遊びたくなる園庭作り』

<テーマの設定理由>

保育者が園庭で遊ぶ子ども達の姿をみて、いろいろな物にもっと自由に触れたり、さまざまな事を感じたりしながら遊べないかという意見が出た。話し合いを重ねて、自然に触れることや、子ども達のやってみいたいという気持ちを引き出す大切さを再認識した。園の特色として、桜の木があるので、季節の移り変わりを感じることができる。また、園庭に青虫などの好きな葉っぱもあることから、虫の採取や飼育を楽しむことができる。これらの特色を生かし、さらに、自然を感じながら自由に遊んでほしいという思いから園庭作りをテーマに設定した。

2. 活動スケジュール

5月：園庭の環境を見直すために、保育者がどんな園庭にしたいか話し合いを重ね、従来の遊具の見直しをした。その後、園庭の環境を四季に応じた自然遊びができるように整えた。

9月：5歳児は、すり鉢などを使って草花染めをした。

11月：からふる号(車のボディが黒板になっており、チョークで描くことができる。様々な遊具で体を動かしてあそぶことができる。)の体験をする。園庭に木製テーブルやベンチ、砂場用イス(上を歩いて渡ってあそぶことも可能)を使って遊ぶことができるよう環境を整えていった。

12月：落ち葉プールを作って遊ぶ。

2月：お片付けロボット(ロボットの口やボディの穴に砂場遊具を入れると下に設置したカゴに収納される仕組み)やコロコロコースター(お皿を転がして片づける)などを作りお片付けも楽しめるように工夫した。4歳児は石臼を使って大豆をすりつぶす経験をした。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

テント、木製ベンチテーブルセット、お外で使えるテーブル、水あそび用品、すり鉢、ふるい、石臼、木材等(お片付けロボットとコロコロコースターを製作材料)、大豆、土、バーク堆肥、草花の苗・種・球根など

子ども達が自然に触れ、遊びながら学べる環境を整えていった。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

4歳児 石臼できな粉作り 5歳児 草花染め

夏に育てた枝豆が枯れてしまい、大豆となったため、購入した石臼ですり潰してみた。量が少なかったことや、石臼では粗くなってしまい、きな粉にならなかったことから、すり鉢で潰してみると、本物のきな粉になった。

5歳児 草花染め

かぶの栽培の残りを使い、すり鉢で葉の部分を擦ってみたところ、緑色の汁が出てきてその後も園庭にある草や花などを擦り始めた。その汁をペーパータオルにつけてみたり、さらしをつけてみたりして変化を楽しんだ。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

4歳児 子ども達は、はじめての石臼を見て、どんな風になるのかワクワクしている様子であった。石臼では残念ながらきな粉にならなかったが、すり鉢を用意するとすぐにみんなですり潰していた。きな粉になると、見た目だけでなく香りも嗅いで「きな粉だ!」と嬉しそうに言っていた。



5歳児 かぶを渡すと「切りたい!」という声があったが、包丁は使えなかったため、「すり鉢ならあるよ」と話すと、すぐに「やりたい!」という声があがった。かぶの本体は硬くてうまくすれなかったが、「葉っぱもやってみよう!」とすり始める。すりはじめると、緑の汁がでてきたため「抹茶だ!」と喜んでいて。その後おもしろい花を擦ると、濃い色水ができ子ども達は喜んでいて。色水に布や紙をつけてみたことをきっかけに、祖父母のプレゼントにコースターを作ることになった。



全園児 からふる号の体験をする。車が園庭に入り、遊具が準備されていく様子子ども達は「何が始まるんだろう」「やってみたいな」とつぶやき、わくわくしている姿があった。体のバランスをとりながら遊ぶ遊具や高さのある遊具に、自分からチャレンジしてみたが、なかなか上手いかず心が折れる様子を見せていた子が、また同じ遊具に再チャレンジしたり、友達の姿を自分のことのように見守ったりする姿もあった。乳児が幼児の姿を見て楽しそうと感じて真似をして遊んでみっていた。

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

4歳児 収穫した大豆は生であったため、石臼でもすり潰すことが出来なかった。あらかじめ準備をしてあった市販の大豆は煎ってあったため、子ども達が自分ですることが出来た。生の大豆はすり潰すことが出来ないことを事前に調べておくべきであったと反省した。しかし、クラスの子供達と一緒に学ぶことができよかった。

5歳児 子どもに発見をもたらし、意欲をどうしたら引き出せるのかを一緒に考え、用具を用意していくことで、遊びや学びが広がっていった。花や草が、どんな色が出るのか探究しながら楽しむことが出来た。最終的に草花染めまでに発展でき、プレゼントすることができ良かったと思う。

全園児 わくわくするような環境が整ってきていることで、さらに自発的にのびのびと遊ぶようになった。体を動かす活動に対して積極的な姿がみられるようになったり、片付けに対して楽しい要素があることで自発的な姿に繋がったりした。保育者側で環境を整えていくことで、子どもたちが自らかわる意欲や経験を通して、遊びが更に豊かになっていくことを保育者間で再認識することができた。